平成　２９年　４月　７日

平成　２８年度　地域貢献活動支援報告書

社会連携研究センター長　殿

所　属　生物資源学研究科
氏　名　　成岡　市

活動テーマ	ドボク的視点からの歴史探訪まち歩き動画制作「ブラドボク」
実施期間	平成 27 年　4 月　1 日　～　平成　29 年　3 月　31 日
活動内容	（１）具体的な活動実施内容 ①　津市教育委員会中村氏と共同で、三重県内の「沈下橋」の実態調査を行った．（通年） ②　ドローンを購入し、俯瞰的な位置からの動画および画像撮影を可能とした。 ③　平成 29 年 3 月 3 日(金曜日)13:00～16:50 シンポジウム「歴史が紡ぐ技術の伝承」を開催した。 （２）地域への貢献（地域の発展・活性化への寄与，広がり） ①　沈下橋 津市でも十分な本数と位置を把握していなかった沈下橋の全量調査を行い、その管理実態で明らかにした。PR に向けての準備が整った。 ②　ドローン購入 俯瞰的な視点からの動画および静止画の撮影が可能となった。本事業の動画撮影だけでなく、学生実習の「測量実習」や活動主体である農業農村工学講座が地域と連携して毎年行っている社会人技術者向けの「測量実習研修会」でも積極的に活用し、三重県における UAV を用いた測量技術の向上に寄与できる。

	③　シンポジウム 歴史と土木というテーマを中心に、土木という一つの分野にとらわれず歴史、測量、環境、教育という異なる話題を提供するシンポジウムが開催できた。聴衆は、三重県のみならず近隣自治体関係者が多数参加し、歴史と土木の深い関係性を伝えることができた。 （３）共同実施者との連携状況 ①　沈下橋 共同実施者である津市教育委員会中村氏との打ち合わせを２か月に１度毎に設け、方針やデータ項目等の打ち合わせを重ねた。 また、共同実施者以外にもヒアリング開催には、高野尾のファーマーズマーケット朝津味と連携し、朝津味にて４回のヒアリングを開催した。 ②　ドローン 購入時期が遅くなったため、事業年度内の多面的活用はできなかった。しかし、社会人の測量研修会は毎年行っているため、次年度以降共同実施者を超えて地域社会と連携しながら活用できる見込みである。 ③　シンポジウム 共同実施者である津市教育委員会中村氏も話者に入ってもらい、主に自治体関係者に広く事業内容を周知することができた。 （４）大学の教育・研究成果のかかわり ①　沈下橋 沈下橋の調査は卒業研究のテーマとして位置づけ、本年度卒業生の

	卒業論文としてまとめた。次年度関連学会での発表も検討している。 ②　ドローン 購入したドローンは、事業の動画撮影のみならず、学生実習である測量実習での活用を検討している。学生にドローンの使用およびその倫理を周知することは、学生教育に大きな意味をもつと考えられる。 ③　シンポジウム 開催したシンポジウムは、共生環境学専攻の大学院博士後期課程重点課題に関するシンポジウムとコラボし、大学院教育の一環として開催した。 （5）イベント等開催実績（名称，実施場所，参加人数等） ③　シンポジウム 会合名　：大学院博士後期課程重点課題に関するシンポジウム 第 19 回(共生環境学専攻) テーマ　：歴史が紡ぐ技術の伝承 主催　　：三重大学大学院生物資源学研究科（共生環境学専攻） とき　　：平成 29 年 3 月 3 日(金曜日)13:00～16:50 ところ　：生物資源学研究科、2F 大講義室 参加費　：無料 総合司会：多森成子（三重テレビ放送 キャスター） 13:00　受付開始 13:15　開催挨拶（共生環境学専攻長　酒井俊典） 13:20　趣旨説明（大学院後期課程主任　成岡市） 13:30　1．幕末・明治期における技術の地域的発展と人材輩出を振り返

	る～三重県編～ 津市教育委員会生涯学習課主幹　中村光司 14:20　2. 温故知新の「測量技術」を考える～江戸時代から現在～ (株)若鈴測量情報部部長　谷口光廣 15:10　3. 農地がもつ環境保全機能の源流を探る～思想、実践、歴史～ 農業環境技術研究所名誉研究員　谷山一郎 16:00　4. 農学・農業分野における技術者育成を考える～大学の責任、役割、未来～ 三重大学大学院生物資源学研究科教授　成岡市 16:50　閉会挨拶(共生環境学副専攻長　陳山鵬) 参加人数　約３０名 （６）これまでの取組みによって得られた具体的な成果について ・継続２年目の事業となり、ドローンを購入し機器の充実が図られた。 ・沈下橋の研究、シンポジウムの開催などにより、共同実施者を核として、地域社会との連携がより一層広がった。 ・これまでの地域社会との関係、機器の充実を基盤に積極的に情報発信していきたい。